

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和3年度第1回神奈川県肝炎対策協議会		
開催日時	令和4年3月3日(木曜日)18時00分～20時00分		
開催方法	Web開催		
(役職名) 出席者	(会長) 田中克明 井上郁子(以下、50音順) 加川建弘 賀川美雪 笹生正人 渋谷明隆 鈴木通博 竹村克二 東健一 弘中千加 松井雅子 幸田吉史 小笠原浩(川端啓文委員代理) 今井治彦(小泉祐子委員代理)		
次回開催予定日	令和4年7月		
問い合わせ先	がん・疾病対策課がん・肝炎対策グループ 深水 電話番号 045-210-4795 ファクシミリ番号 045-210-8860		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録 ・ 議事概要 	議事概要とした理由	不確定な情報であって、公開すると混乱を生じさせるおそれがある情報(神奈川県情報公開条例第5条(3)の内容)のため
審議(会議)経過	1 報告 (1) 肝疾患対策事業の実施状況について <資料1、2、3、4について事務局から説明> (2) 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について <資料4について事務局から説明> (会長) 肝炎治療医療費助成の申請・認定・支払、肝炎ウイルス検査、肝疾		

患医療センター事業の実施状況及び肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の報告ですが、質問はありますか。

資料3の肝疾患医療センター事業の中で、東海大学医学部附属病院での医療従事者研修が多くの参加人員となっていますが、どのような工夫をされたのでしょうか。

(加川委員)

セミナーのスライドをユーチューブ動画にして限定公開し、受講者がオンデマンドで視聴できるようにしました。そのため、多くの人が受講できたのだと思います。

(賀川委員)

コーディネーターセミナーは、年に何回くらい行われているのですか。

(事務局)

コーディネーターセミナーは、県内に5箇所ある肝疾患医療センター（拠点病院）に実施を委託して、年に1回行っているところです。

2 議題

(1) 神奈川県肝炎対策推進計画の進捗状況について

<資料5、6、7について事務局から説明>

(2) 神奈川県肝炎対策推進計画の改定について

<資料8、9、10について事務局から説明>

(会長)

委員の方からのご意見を順番にいただきたいと思います。

(松井委員)

肝炎ウイルス検査の受検率向上を、県民ニーズ調査で判定していますが、県民ニーズ調査では、市町村でのやり方や市町村の格差などがはっきり見えてこないのではないのでしょうか。他県でも市町村での格差が大きい県があるとの報告もあります。又、職域における受検促進が引き続きの項目に入っていますが、いまだ偏見・差別がある中での職域受検が難しいとの声を聞きます。この点に関してはどのような方法をお考えでしょうか。

(事務局)

肝炎ウイルス検査は、健康増進事業によるものと特定感染症事業により県内市町村及び県で行われていますが、特定感染症事業による肝

炎ウイルス検査は、保健所政令市及び地域の保健所で行われていることから市町村ごとのデータを出すのは難しい状況です。

また、職域における肝炎ウイルス検査につきましては、令和2年度に啓発イベント及び事業所等に対して職域健診への肝炎ウイルス検査の実施促進を啓発するマニュアルを作成する予定でありましたが、コロナの影響で実施することができませんでした。今後は健保組合を通して周知していく予定であります。

(井上委員)

これまで457名養成されたコーディネーターは、薬局に多く配置されているかと思いますが、これからいろいろなところで増えていくといいと思います。行政の職員を含めて配置の場所、地域で手を繋いで活動していければいいと思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。続きまして、平塚保健福祉事務所秦野センターの弘中さんお願いいたします。

(弘中委員)

はい、宜しくお願いします。私自身、ちょっと肝疾患コーディネーターのことがよくわからないので質問というところで少しお話を聞かせていただきたいと思います。

実際に今、コーディネーターの方ですけど、具体的に医療機関で活躍されているのはイメージが湧くのですが、それ以外、例えばどういったところにどう配置をされていて、どのような活動をされているのか？そのあたり、分かれば教えていただきたいと思います。お願いします。

(会長)

ありがとうございます。では、事務局のほうからお願いします。

(事務局)

コーディネーターになられている方のいる場所としましては、現在は薬局が多くなっています。薬局で、肝炎と関係ない病気で行かれた時に肝炎の薬でなかったとしても薬局の方で、お話を聞いたりとか、そういうことができるという話もありまして。平成30年度や令和元年度というのはどちらかというと、薬局をメインに、薬剤師さんにたくさんなってもらった経緯があるところです。ただ、回を重ねていく中で、セミナーをお願いしている大学病院ごとに、今回は職域、職場の健康管理の担当者であるとか、病院によっては検査技師さんとかがたくさん受けていただいたりとか、今は割と幅広く、病院を中心にです。

けれども、なっただいていてる方は増えてきてる実感はあります。

(弘中委員)

はい、ありがとうございました。先ほど井上委員も仰っていたような形で、やはり数だけではなくて。実際に本当にいろいろなところに、いらっしゃるとしたら、それぞれの中でどのような相談を受けているだとか、どのような形で患者さんのご支援をしていけばいいのかというところを皆さんで共有ができて、地域全体の中で、相談ができるような、そのような体制ができるといいのかなと思います。どうもありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございました。職域なんかもうちょっと充実するといいですね。これは、何かいいアイデアがございましたら、またお示しいただければと思います。

続きまして、横浜市の健康福祉局保健事業課の東様いかがでしょうか？

(東委員)

はい、ありがとうございます。全体としては非常にこの5本の柱で見える化されていて、評価もわかりやすくいいのではないかなと思いました。ただ、さっき令和元年度と令和2年度の結果報告を聞いて思ったんですけども、質問の仕方を途中で変えちゃうというのは、同じ数値として比べる中では結構ご法度だと思うので、基本的に最初に、計画を立てるときにどういう質問で聞きますというのを、数値を定めたら、その計画の年度の間は動かさないというのは、徹底されたほうがいいのではないかなと思いました。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。データを出すときは、確かにそうですよね。それが大原則になりますので、やはり最初いかにしっかりと目標を設定するかっていうところではないかと思いました。

聖マリアンナ医科大学の鈴木通博先生、いかがでしょうか？

(鈴木委員)

ありがとうございます。ここ数年で、いろんな形で治療が変わってきています。特にウイルス性肝炎では、治療効果が非常に高くなっています。この個別目標、特に①、②、③というのは、やはり何とか若年者に一度肝炎ウイルスの検査をきちんと受けていただくというのが非常に重要だと思います。特にC型肝炎に関しましては、短期間の飲み薬で、副作用は少なく、完治が可能な病気になりました。ですので、

まずこの肝炎ウイルス検査の受診、受検率を向上させるのをどうしたらいいかということですね。それと、もちろん陽性者に対しては、コーディネーターの関与も含め、なんとか治療にきちんと若年で「つなぐ」ということが非常に大事ななと思いました。コーディネーター、あるいは相談っていうことに関しましては、やはりご自身がもうすでに慢性の肝疾患を患っているような患者さんが、そういうところに頼っていくのはどうしたらいいのか、あるいはお薬の相談などが気軽に対応できればいいのかなと思いました。

(会長)

はい、ありがとうございました。今現在はまだ発言されていない先生にお聞きしていますので、また手を上げられる方は全体が終わってからまた手をあげていただきたいと思います。続きまして北里研究所の渋谷先生いかがでしょうか？

(渋谷委員)

はい、今までの話を伺っていて、特に鈴木先生の話もそうなんですが、B型肝炎C型肝炎の割と初期段階の患者さんについては、もう治療方法が確立してきて。これから、そういった患者さんはどんどん減ってくるだろうと思うのですが、今後、喫緊の問題になるのは、ある程度病気が進んでしまった人、肝硬変、あるいはがんができてしまった患者さんが問題になると思います。ウイルスが消えても発がんする可能性がある。そういった発がんの可能性のある方を通常は、例えばかかりつけの先生に診ていただいているながら年に一回とか二回は専門医にうまく繋げられるようなシステムがあるといいだろうなということをお考えながら伺っていました。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。確かに治療が進むとそうですね。続きまして神奈川県医師会の笹生先生、よろしくお願ひします。

(笹生委員)

はい、笹生です。よろしくお願ひします。

感染症と発がんリスクというところで、HPV の子宮頸がんや胃がんのヘリコバクターピロリもそうなのですが、やはり肝炎ウイルスと肝がんは非常に大事なところで、認知度の目標がまだ少ないのかなということもあり、先ほど鈴木先生や渋谷先生が言われたように、やはりもっと認知度の向上と、なるべく検査を受けていただくという方向にもっていったらいいと思うので、そのあたりを見直していただきたいと思います。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。ぜひいいアイデアがあれば、ぜひまた事務局の方にもご指示いただければと思いますので、よろしくお願いたします。では、川崎市健康福祉局小泉さんいかがでしょうか？代理の今井さんですね。今井様、はい。

(今井氏（小泉委員代理）)

はいすみません。川崎市の保健所の感染症対策課の今井と申します。本日小泉の代理で出席させていただいております。お願いします。私としましては、検査の受検者の増加は、もちろん大事なんですけども、陽性になった方を確実に治療に繋げることが大切かなと思っております。ですので、フォローアップの部分③番なんですけれども、実施している市町村の実施率も大事なんですが、その陽性者のうち、どれだけ精密検査もしくは治療に繋がったかといったような数字を掲げることが必要なのかなというふうに思いましたのと、あとその精密検査の申請者数も出してもよろしいのではないかなとは聞きながら思ったところです。以上です。

(会長)

はい、ご意見いただきありがとうございます。また、ちょっと事務局の方で検討させていただきたいと思います。次に相模原市の川端様の代理で小笠原様いかがでしょうか？

(小笠原氏（川端委員代理）)

代理の小笠原です。現計画は個別目標ということで、5点ほど挙げられておりますので、その中の三つ①②③ということで、それぞれの認知度の向上ですとか、受検率の向上、実施率100%ということの中でですね。目標を定めていますので、これに向かってですね、県と協力して行きたいなと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(会長)

はい、ありがとうございます。では公募委員の賀川美雪様いかがでしょうか？

(賀川委員)

はい、ありがとうございます。私も今回コーディネーターの更新ができました。仕事を持っていて、これは職域では無いので、本当に、接する方にお話しをするという橋渡しですね。草の根の橋渡しのような感じになります。事務局というか、コーディネーターの定期協議っていう一つのそのなんでしょう？協議会、そういうスタイルのものを持っていただけないものかなって。そうすると、すべてのこ

の項目に対してやはり太い柱といたしますか。このコーディネーターの活用って人的資源だと思うんです。で、ましてやその広報の媒体も、市区町村でいろいろな薬局に行ったら目に留まるような、そういうものがあって、今、QRコードとか即こう繋がるような、そういうこともあったら、これはすごいことになるんじゃないかなと。2030年のスパンということで、やはりがんの進行もやはり行く人もいますし、そうするとその方にはやはり助成金の問題ですか？それも全部コーディネーターが把握していますのでね。やはりこのコーディネーターの活用に力を入れていただきたいかなって思いますね。以上です。

(会長)

はい、貴重な意見ありがとうございました。やはりコーディネーターの仕事の内容と、やっぱりコーディネーターの方々にも一遍まとめて、ご意見を聞くって言うことがやっぱり大事だということですよ。私もそのように思いますので、ちょっと事務局の方で検討させていただきます。では東海大学の加川先生。お願いします。

(加川委員)

私もコーディネーターをどう活用するかというところが非常に重要だと思います。今回神奈川県がコーディネーターになられた方にアンケートを取られていますよね。どんな活動をしているかというアンケートを取られていますので、実際に活動している人が何パーセントいるかというのがわかると思います。活動しているコーディネーターの割合を経年的に評価するというのも一つの方法かなと思いました。以上です。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございました。確かに私たちの立場からするとコーディネーターの方がどういう活動をされているのか、ちょっとわかりにくいところもありますので、そういった点も含めてちょっとコーディネーターの方々の意見もまとめてみたいなと思いました。

それから横須賀市保健所の出石委員は欠席ですね。

最後になりましたけれども、神奈川県医師会の竹村先生、いかがでしょうか？

(竹村委員)

初めての参加ですので初歩的な質問になるかもしれませんが申し訳ありません。私は消化器を専門としておりますが、消化管が専門ですので、肝炎に関しては北里病院等専門機関に治療はお願いしております。それでも肝炎の患者さんを見る機会が多いのですが、肝炎のコーディネーターがいるという話は今日初めて伺いました。県がそのような

方を積極的に育成しているというのであれば、資格を持った方がどこに所属しているのか、どのように相談すればいいのか教えていただきたいと思います。薬局に配置されているのか、行政の機関に所属しているのか、どう利用できるのか、それをきちんと決めておかないと単に講習を受けた方がいるだけということだけで終わってしまうと思います。資格を与えた方の配置と相談の仕方を考えていただきたいと思います。

肝炎検査の受診率の算定の仕方も理解できませんでした。行政の行っている肝炎検査は一生で1回の検査ですので、何をもって毎年の達成率としているのでしょうか。企業の行っている肝炎検査の達成率の算定基準はどのようなのでしょうか。そのほか医療機関で行っている一般的な肝炎検査は加算されているのでしょうか。何をもって肝炎検査の達成率としているのかを考え直す必要はないのでしょうか。

(会長)

はい、貴重な意見ありがとうございました。事務局の方から何か特にこの追加のコメントとか、そういうのはよろしいでしょうかね？一通りご意見はお聞きしたのですが、何か追加でこれは是非聞いておきたいとかというのはございますでしょうか？

あればちょっと挙手をお願いしたいと思うのですが。
茅ヶ崎市の保健所の井上委員お願いいたします。

(井上委員)

はい、井上です。今回令和2年度に試験的に、相談先がわからない方の割合を調査したというのは非常に良いことだなというふうに思いました。で、⑤番の数値目標ですけれども相談したいが相談できない患者の割合をゼロにする。これはぜひ頑張ってやっていければというふうに思います。で、先ほどからコーディネーターの話も出ておりますけれども、薬局への配置の方が多くということで、患者さんは必ずお薬をもらいに薬局に行くわけですよ。なので、コーディネーターの配置を薬局に重点を置いて肝臓病の薬を出している薬局の薬剤師さんは、全員コーディネーターをとるぐらいの持つ資格を持つぐらい。そういうふうにして行かないと患者さんはお薬もらいに行きました。何も相談が情報も教えてもらえませんでした。ということになってしまうのではないかなというふうに思いますので、薬局、肝炎の薬を出す薬局の何パーセントの、薬局全体で何パーセントがコーディネーターを配置するとかってというような視点で④番と⑤番が解決できていると、いいかなと思いました。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。神奈川県下における薬局のどの程

度コーディネーターがいるかという、そういう指標ですよ。それも一つの考え方だと思います。なかなか大変ですね。

他にご意見ございますでしょうか？ よろしいでしょうか？手を挙げていただければと思いますがいませんか？

公募委員の松井様。何かご意見ございますでしょうか？

(松井委員)

ありがとうございます。先ほどの公募委員の賀川さんのお話しになったことと同じ内容でしたので、ちょっと挙手を控えていましたが、私も一般のコーディネーター認定をしていただきまして、1月に更新の研修を受けました。現在、コロナ禍ということで、なかなか活動はできておりませんが。患者さん同士の交流会のような場で、皆さんのお悩みを伺ったり、その中で、私たちが、専門的ではないですので、どういうふうにつなげていったらいいかとか、そういったお悩みを伺うような活動を微力ではありますが、やっておりました。で、以前からやはり一般ってということで、本当賀川さんが仰るようにぜひ協議会のようなものを作ってもらえると助かる。そういった意見も県のほうにお話させていただいたこともあります。以上です。

(会長)

はい、貴重な意見ありがとうございます。もう時間も迫ってまいりますので、もうそろそろ終わらせていただきたいと思います。資料⑩の今後のスケジュールのところをご覧になりますと、今日は第一回の協議会ですが、これから色んな皆様方の意見を取り入れたところ、取りまとめたところで、一応骨子案を作成するというようなことになっております。

是非、今日ちょっとあとで思いついた。でも結構ですが、ご意見がございましたら、後程事務局の方に改めてお話しいただければと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

用意されている議題は以上ですが、全体を通してなにか委員の皆様方のご意見とかコメントございますでしょうか？よろしいでしょうか？はい。ちょっと長い時間、途中ちょっと不手際もありまして、私の発言が音声が不調になってしまいましたけれども、こういうことがないように、実はここに来たんですけれども、ご容赦いただければと思います。以上をもちまして議事を終了させていただき、進行を事務局の方にお返し致します。

閉会

以上

資料 1	令和元年度・令和 2 年度 肝炎治療医療費助成制度申請・認定・支払状況
資料 2	肝炎ウイルス検査（検診）実施状況 （平成 29 年度、30 年度、令和元年度）
資料 3	令和元年度・令和 2 年度肝疾患医療センター事業
資料 4	肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について
資料 5	神奈川県肝炎対策推進計画の進捗状況について
資料 6	神奈川県肝炎対策推進計画（令和元年度事業の進行管理一覧）
資料 7	神奈川県肝炎対策推進計画（令和 2 年度事業の進行管理一覧）
資料 8	改定にあたって盛り込む項目について
資料 9	数値目標の設定について
資料 10	今後のスケジュール